

(第3種郵便物認可)

ひよろばいの

医療



亡くなった哲彦さんの思い出を語り合う
小島隆彦さん(左)と桜井隆医師(尼崎市
南武庫之荘8)

口から食べられなくなったとき

「判断が正しかったのかどうか、今も迷いが無いと言えは、うそになる」。昨年12月に81歳の父を見送った尼崎市南武庫之荘の来迎寺住職、小島隆彦さん(50)は、胃ろうなどで延命措置を施さなかった終末期の介護について振り返る。

父で先代住職の哲彦さんは2012年春ごろから認知症の症状が始め、昨年夏には

便意のコントロールが難しい状態に。食事量も減った。「そのころは普通食で、家族と食卓に着いていた」と話す隆彦さんだが、食事の量は以前の半分ほどに減少。水分が十分に取れないため尿は回数が減り、血尿のような濃い色に。血圧も低くなり、熱中症でさらに体力が落ちた。

主治医のさくらいクリニック(尼崎市武庫元町)院長、

桜井隆さん(57)は「認知症が進行して全身の機能が低下した。その結果、口から食べる量が減り、脱水症状も起こっていた」とみる。

トイレで転倒して、痛みで立ち上がれなくなり、桜井さんの紹介で総合病院に入院。すると、着替えができなくなる▽睡眠が昼夜逆転する

多彩な点滴、胃ろう：いつまで

なく認知症がさらに進んだ。食べ物や唾液が咽って気管に入ってしまう誤嚥を防ぐため、痛がる哲彦さんを起し、車いすで食事をさせたが、量は減る一方だった。

「人工的な延命は、きっと父の意思に反する。想像でしかなかったが、そんな思いから胃ろうはつけさせないと決めていた」と隆彦さん。代わりに皮下輸液法による点滴を、一時的に受けさせた。

「延命措置」めぐり苦悩

3カ月が過ぎ、退院しなればならなくなった哲彦さんは老人ホームに。「食事もできなくなる」という職員の話に期待したが、状態は変わらなかった。座れるのは長くて10分。何度かに分けて食べさせてもらったが、固形物が喉を通らなくなった。そこで桜井さんが高栄養のシームやゼリー、プリンでもいい。好きな物を好きなときに、

食べられるだけ食べてもらうように」とアドバイスした。

ホームに入ってる適目、哲彦さんは高熱を出して全身症状が悪化した。駆け付けた隆彦さんは「高熱が出たと聞き、インフルエンザにでもかかったかと思っていたので、それなら熱を下げてほしい」と。だが、病院に救急搬送したところ、尿路感染による敗血症

感染症は落ち着き退院。だが老人ホームに戻った日の夜、痰が絡み、息ができなくなった。看護師が処置したが、「見回りは数時間ごとなので、タイミングが悪ければ」なんて思っていたかもしれないと思

「痰の絡み」

ホームに入ってる適目、哲彦さんは高熱を出して全身症状が悪化した。駆け付けた隆彦さんは「高熱が出たと聞き、インフルエンザにでもかかったかと思っていたので、それなら熱を下げてほしい」と。だが、病院に救急搬送したところ、尿路感染による敗血症

「病気で口から食事が十分に取れなくなったり、嚥下機能が落ちてきたりした人に対し、胃に小さな穴を開け、管を通して人工栄養を直接投与方法

腹壁や大腿の皮下組織に細い針を刺し、少量ずつ染み込ませるように点滴を施す方法。高齢者の脱水対策や、終末期の水分補給に使われることが多い

手足の静脈から点滴を施し、主に水分を補給する。単に点滴といえば、この方法を指すことが多い。長期の生命維持に必要な高カロリーーの輸液は投与できない

口から食べることが難しい患者に対し、細いプラスチック製の管を心臓近くの太い静脈に挿入、とどめておいて高カロリーーの輸液を投与する。薬の投与も可能

終末期の主な栄養の取り方

(桜井隆医師の話などを基に作成)

- 胃ろう
- 皮下輸液法
- 末梢静脈栄養法
- 中心静脈栄養法

シリーズ31

終末期医療③

栄養の取り方

「判断が正しかったのかどうか、今も迷いが無いと言えは、うそになる」。昨年12月に81歳の父を見送った尼崎市南武庫之荘の来迎寺住職、小島隆彦さん(50)は、胃ろうなどで延命措置を施さなかった終末期の介護について振り返る。

「病気で口から食事が十分に取れなくなったり、嚥下機能が落ちてきたりした人に対し、胃に小さな穴を開け、管を通して人工栄養を直接投与方法

腹壁や大腿の皮下組織に細い針を刺し、少量ずつ染み込ませるように点滴を施す方法。高齢者の脱水対策や、終末期の水分補給に使われることが多い

手足の静脈から点滴を施し、主に水分を補給する。単に点滴といえば、この方法を指すことが多い。長期の生命維持に必要な高カロリーーの輸液は投与できない

口から食べることが難しい患者に対し、細いプラスチック製の管を心臓近くの太い静脈に挿入、とどめておいて高カロリーーの輸液を投与する。薬の投与も可能

「病院で積極的な治療を続けることが父にとってはいかにしていいことかと分かった」

「病院で積極的な治療を続けることが父にとってはいかにしていいことかと分かった」

「病院で積極的な治療を続けることが父にとってはいかにしていいことかと分かった」

「病院で積極的な治療を続けることが父にとってはいかにしていいことかと分かった」

「病院で積極的な治療を続けることが父にとってはいかにしていいことかと分かった」

「病院で積極的な治療を続けることが父にとってはいかにしていいことかと分かった」

「病院で積極的な治療を続けることが父にとってはいかにしていいことかと分かった」

「病院で積極的な治療を続けることが父にとってはいかにしていいことかと分かった」

「病院で積極的な治療を続けることが父にとってはいかにしていいことかと分かった」

「病院で積極的な治療を続けることが父にとってはいかにしていいことかと分かった」